

花粉の少ないスギ11系統の直挿し育苗適性の評価

1 はじめに

直挿し育苗に利用可能な花粉の少ないスギの系統数を増やすため、既報¹⁾で行った系統ごとの発根状況の調査に加え、今回、系統別の苗木成長を調査し、得苗基準を用いて、直挿し育苗適性の評価を行った。

2 方法

試験は、2021年5月から2022年10月にかけて岩手県住田町で行った。供試系統および本数は、花粉の少ないスギ11系統の766本である。穂木の調整、挿し付け、使用した用土、挿し付け後の管理方法は、既報¹⁾、²⁾のとおりである。

2022年10月、生存個体の根元径、苗高を計測し、系統別の得苗率を①式により算出した。得苗基準は林野庁のスギコンテナ苗5号規格（根元径：4mm以上、苗高：30cm以上）を用いた。

$$\text{得苗率 (\%)} = \frac{\text{得苗基準を上回った本数}}{\text{挿し付け本数}} \times 100 \quad \dots \text{①}$$

1) 岩手県林業技術センター研究成果速報No.388、2) 左同 No.387



挿し付け1年5ヶ月後の直挿し苗木
(※) 赤点線：苗高の得苗基準(30cm)

3 結果と考察

系統別の根元径は6.90~7.97mm、苗高は36.7~54.6cmであった（表1）。系統別の得苗率は65~100%であった（図1）。黒石5号、北秋田1号、雄勝3号では、苗高が他系統に比べて低かったが、約7割の得苗は確保できるものと考えられた。

4 成果と今後の進め方

供試した全11系統で、概ね7割以上の得苗となることから、いずれも直挿し育苗可能な系統と判断された。穂木供給できる系統は、既報¹⁾では9系統だったが、今回、新たに黒石5号、雄勝3号の2系統が加わった。今後は、これら11系統の穂木供給を進めていく。

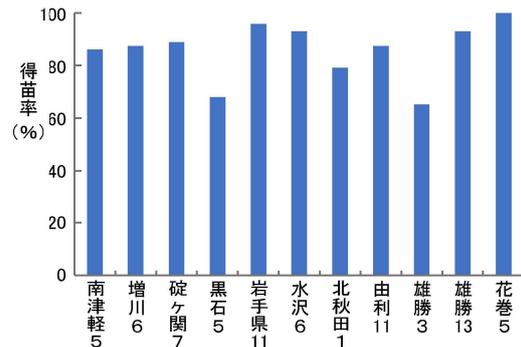


図1 系統別の得苗率 (挿し付け1年5ヶ月後)

表1 系統別の根元径、苗高 (挿し付け1年5ヶ月後)

系統	生存本数 (本) ※1	根元径 (mm)		苗高 (cm)
		平均	平均	平均
南津軽5号	62	7.40		45.5
増川6号	65	7.66		46.8
碓ヶ関7号	67	7.56		48.0
黒石5号	70	6.95		40.5
岩手11号	70	7.31		54.6
水沢6号	67	6.90		49.3
北秋田1号	69	7.31		36.7
由利11号	45	7.96		49.6
雄勝3号	55	7.78		38.9
雄勝13号	67	7.91		45.0
花巻5号	70	7.97		54.2
全系統	707	7.50		46.3

※1：生存本数 (根元径、苗高の測定本数)

(担当者 研究部 上席専門研究員 丹羽花恵)

連絡先

〒028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス：<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/>

TEL 019-697-1536
FAX 019-697-1410